

堀井先生の思い出

堀井先生に支えていただいた三年間

野口 亜弥

堀井先生と初めてお会いしたのは、私が堀井研究室に入る事が決定した後のことでした。私は元々古典文学を勉強しなかったのですが、研究室を決定する当日に古典文学研究室がなくなってしまうことを知り、「それから近代文学でもいいか」という軽い気持ちで堀井研究室に入ることを決めました。今から思えば何とも軽率な考えによる決定だったと恥じる思いですが、私が堀井研究室を選んだのは間違いではなかったと思います。

堀井先生は、自分が不思議だと思ったことは徹底的に追求する方で、堀井研究室に入ったばかりの頃はそんな堀井先生のお姿にただただ圧倒されるばかりでした。ゼミでも、先生のおっしゃっていることの意味が半分も理解できず、「私はこの研究室にいてやっていけるのだろうか」と不安に思うことも何度もありました。

しかし、三年になり学会発表や卒業論文のことで堀井先生に直接ご指導いただく機会が増えると、そんな不安

を感じている暇もなくなりました。堀井先生の研究に向かう姿勢は本当に真つ直ぐで、些細だと思ふことでもとことんまで追求することが新たな発見につながることを、先生のお姿から学びました。堀井先生のもとで学ばせていただくことがなければ、きっと私は研究することの楽しさに気付くこともなかったと思います。

堀井先生にとつて、知識も教養もない私は、人一倍手のかかる学生だったことと思います。しかし、学会の発表準備が進まなかったときも、卒論が書けなくなってしまうときも、先生は私を責めるでもなく、暖かく支えてくださいました。先生の優しさに甘え過ぎてしまったこともあったと思います。先生の研究に対する姿勢、暖かなお人柄は、私のこれからの人生において目標となるものです。私の人生の師とも呼ぶことができる堀井先生に出会えたこと、堀井先生のもとで学ぶことができたことに、心から感謝しています。堀井先生のこれからの活躍とご健康をお祈りしつつ。

(のぐち あや 岡谷市立上の原小学校)